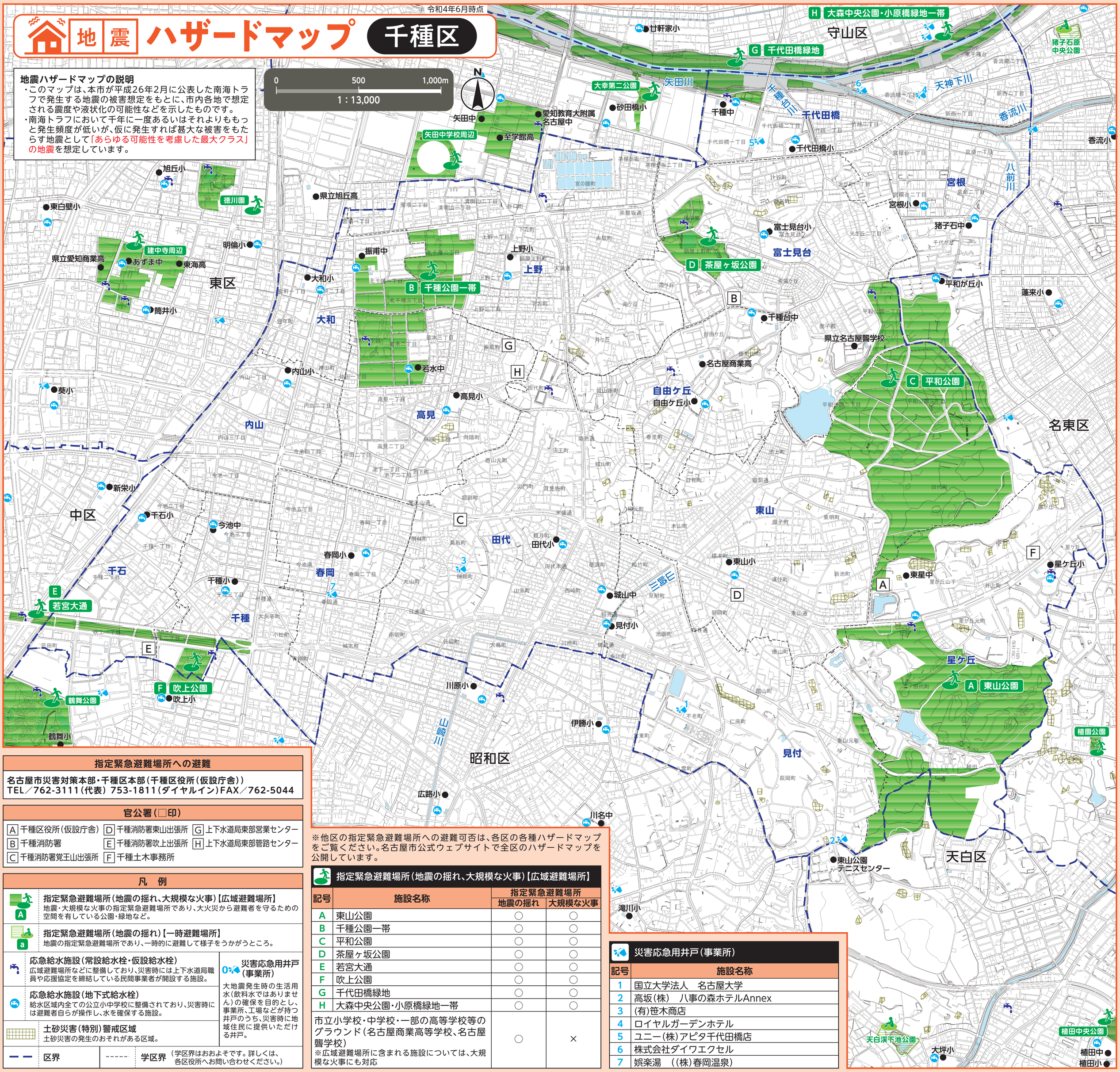
令和4年6月時点

地震ハザードマップ 千種区

地震ハザードマップの説明

・このマップは、本市が平成26年2月に公表した南海トラフで発生する地震の被害想定をもとに、市内各地で想定される震度や液状化の可能性などを示したものです。

・南海トラフにおいて千年に一度あるいはそれよりももっと発生頻度が低いが、仮に発生すれば甚大な被害をもたらす地震として「あらゆる可能性を考慮した最大クラス」の地震を想定しています。



指定緊急避難場所への避難

名古屋市災害対策本部・千種区本部（千種区役所（仮設庁舎））
TEL／762-3111（代表） 753-1811（ダイヤルイン）FAX／762-5044

官公署（□印）

- A 千種区役所（仮設庁舎）
- B 千種消防署
- C 千種消防署覚王山出張所
- D 千種消防署東山出張所
- E 千種消防署吹上出張所
- F 千種土木事務所
- G 上下水道局東部営業センター
- H 上下水道局東部管路センター

凡　例

- **指定緊急避難場所（地震の揺れ、大規模な火事）【広域避難場所】** 地震・大規模な火事の指定緊急避難場所であり、大火災から避難者を守るための空間を有している公園・緑地など。
- **指定緊急避難場所（地震の揺れ）【一時避難場所】** 地震の指定緊急避難場所であり、一時的に避難して様子をうかがうところ。
- **応急給水施設（常設給水栓・仮設給水栓）** 広域避難場所などに整備しており、災害時には上下水道局職員や応援協定を締結している民間事業者が開設する施設。
- **応急給水施設（地下式給水栓）** 給水区域内全ての公立小中学校に整備されており、災害時には避難者自らが操作し、水を確保する施設。
- **土砂災害（特別）警戒区域** 土砂災害の発生のおそれがある区域。
- **災害応急用井戸（事業所）** 大地震発生時の生活用水（飲料水ではありません）の確保を目的とし、事業所、工場などが持つ井戸のうち、災害時に地域住民に提供いただける井戸。
- 区界　学区界（学区界はおおよそです。詳しくは、各区役所へお問い合わせください。）

※他区の指定緊急避難場所への避難可否は、各区の各種ハザードマップをご覧ください。名古屋市公式ウェブサイトで全区のハザードマップを公開しています。

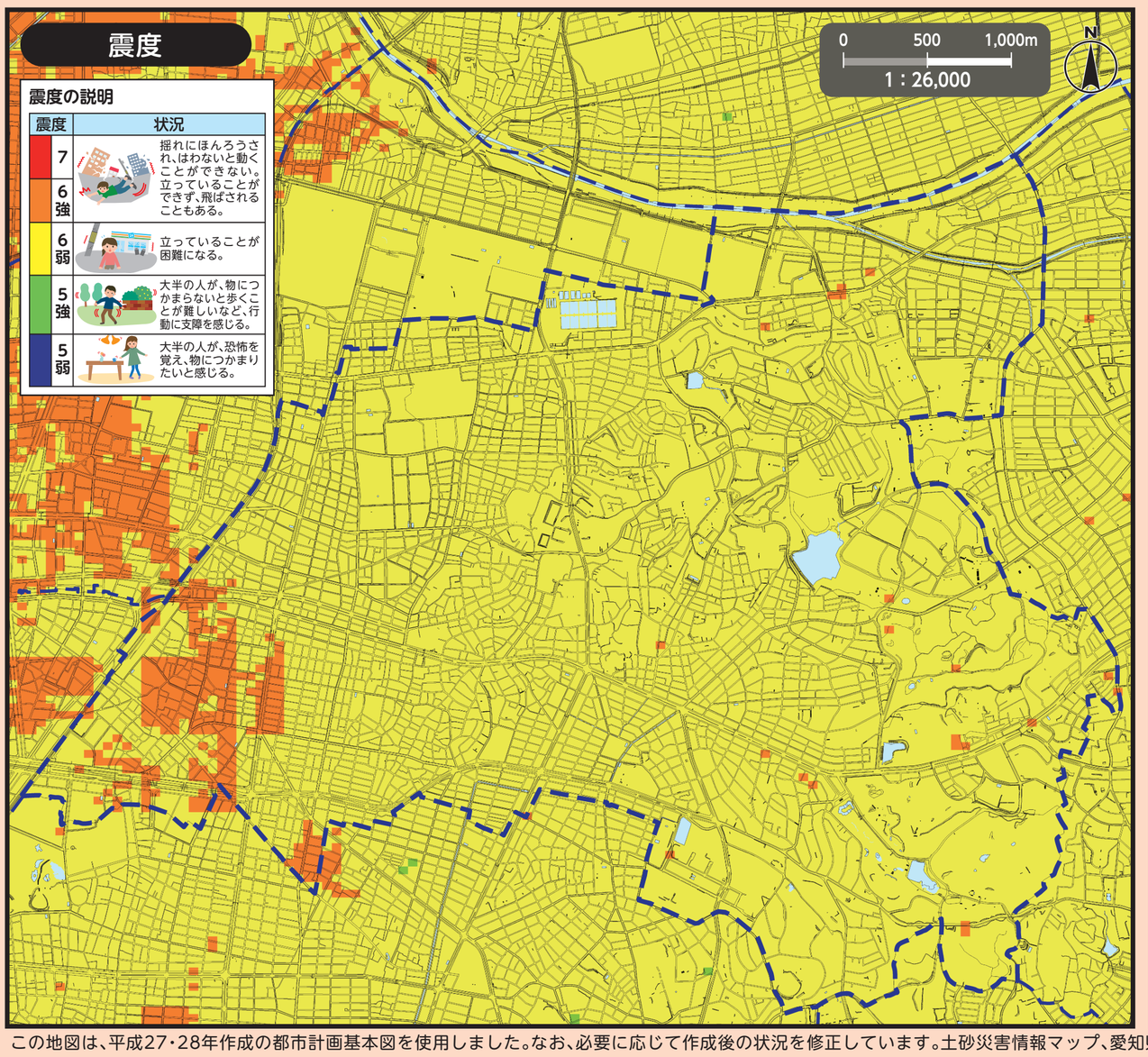
指定緊急避難場所（地震の揺れ、大規模な火事）【広域避難場所】

記号	施設名称	指定緊急避難場所 地震の揺れ	指定緊急避難場所 大規模な火事
A	東山公園	○	○
B	千種公園一帯	○	○
C	平和公園	○	○
D	茶屋ヶ坂公園	○	○
E	若宮大通	○	○
F	吹上公園	○	○
G	千代田橋緑地	○	○
H	大森中央公園・小原橋緑地一帯	○	○
市立小学校・中学校・一部の高等学校等のグラウンド（名古屋商業高等学校、名古屋聾学校）※広域避難場所に含まれる施設については、大規模な火事にも対応		○	×

災害応急用井戸（事業所）

記号	施設名称
1	国立大学法人　名古屋大学
2	高坂（株）　八事の森ホテルAnnex
3	（有）笹木商店
4	ロイヤルガーデンホテル
5	ユニー（株）アピタ千代田橋店
6	株式会社ダイワエクセル
7	娯楽湯　（（株）春岡温泉）

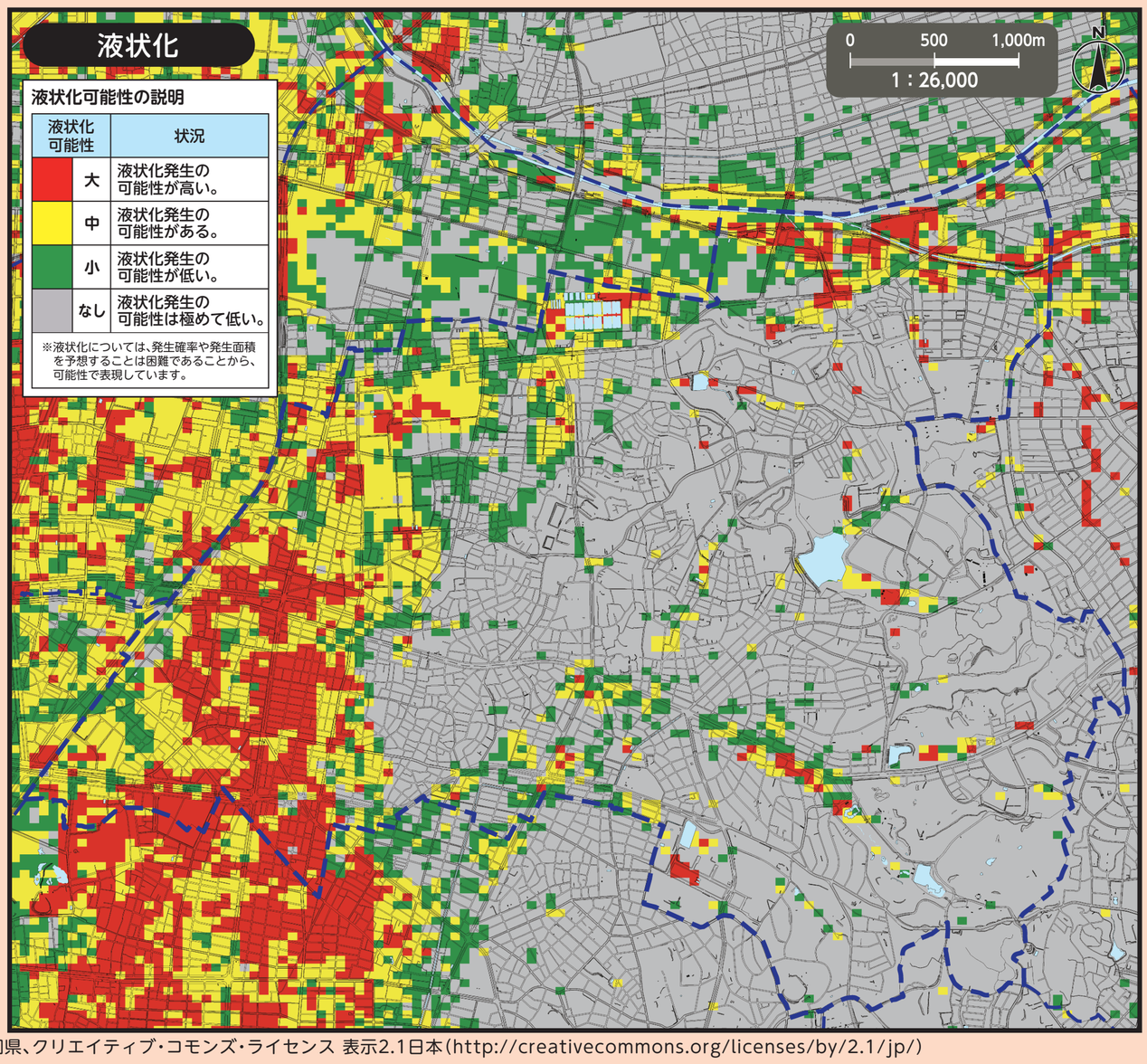
震度



震度の説明

震度	状況
7	揺れにほんろうされ、はわないと動くことができない。立っていることができず、飛ばされることもある。
6強	
6弱	立っていることが困難になる。
5強	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。

液状化



液状化可能性の説明

液状化可能性	状況
大	液状化発生の可能性が高い。
中	液状化発生の可能性がある。
小	液状化発生の可能性が低い。
なし	液状化発生の可能性は極めて低い。

※液状化については、発生確率や発生面積を予想することは困難であることから、可能性で表現しています。

この地図は、平成27・28年作成の都市計画基本図を使用しました。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。土砂災害情報マップ、愛知県、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス 表示2.1日本（http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/）